

ご不明な点がございましたら、地域農業再生協議会又は最寄りの地域センター等にお気軽にご相談（※2）ください。

※1 経営所得安定対策のパンフレットはこちら（加入申請・交付手続きの方法はp.25以降に記載されています。）

→ http://www.maff.go.jp/j/kobetu_ninaite/keiei/pdf/27pamph_all.pdf

※2 お問い合わせ先

○地域農業再生協議会（こちらから地域農業再生協議会の電話番号をご確認いただき、お問い合わせください。）

→ http://www.maff.go.jp/j/kobetu_ninaite/keiei/toiawase.html#nougyou_saisei

○最寄りの地域センター等

・固定電話の方：0120 - 38 - 3786（※平日9:00～17:00）

（自動的に最寄りの農政局、地域センターにつながります。）

・固定電話以外の方（こちらから最寄りの農政局、地域センターの電話番号をご確認いただき、お問い合わせください。）

→ http://www.maff.go.jp/j/kobetu_ninaite/keiei/madoguti.html

=====
2. 支援策活用ガイドの作成について
=====

農林水産省では、農業者の皆様の経営発展を支援するため、毎年様々な支援策をご用意しておりますが、種類が多岐に渡っているため、「自分の経営に合った支援策はあるの？」という疑問やご質問を頂戴しています。そこで、毎年ご好評いただいている「農業経営支援策活用ガイド」を平成27年度に向けた更新しました。「新たな人材を確保したい」「認定農業者になりたい」「基盤整備と併せて規模拡大したい」「農業用機械・施設の整備などに必要な資金を借りたい」など、このガイドは様々な支援策を自ら取り組みたいことから探すことができます。事業の募集期間や問合せ先なども掲載していますので、検討したい支援策を見つけたときはガイド内の各ページに記載している問合せ先へお気軽にご連絡ください。

また、平成27年度に向けて、女性農林漁業者向け「支援策活用ガイド」を新たに作成しました。ここでは、農林漁業者の皆様にご利用いただける当省の施策のうち、特に女性にご活用いただきたいものを中心に各施策の概要を紹介しています。

本ガイドをぜひ皆様の農業経営にお役立て下さい。

■農業経営支援策活用ガイド

http://www.maff.go.jp/j/kobetu_ninaite/n_pamph/h27_guide_top.html

■女性農林漁業者向け「支援策活用ガイド」

<http://www.maff.go.jp/j/keiei/shiensaku.html>

=====
3. 農の雇用事業（平成27年第2回募集）について
=====

農林水産省では、農業分野での雇用を創出し、新規就農者の確保・育成を図るため、農業法人等が青年の就農希望者（正社員としての採用日時時点で原則45歳未満の方）を新たに雇用し、営農に必要な農業生産技術等をしっかり身につけてもらうために実施する実践的な研修（OJT）に対して助成を行う「農の雇用事業」を実施しています。

4月15日を締め切りとして、平成27年6月からの研修を対象に事業参加者の募集を開始しておりますので、ご活用下さい。

<助成額>

年間最大120万円

<お問合せ先>

全国農業会議所、各都道府県農業会議

<募集締め切り>

平成27年4月15（水）

また、農業法人等が就農希望者を一定期間雇用し、生産技術、経営力等を習得させた上で、新たに農業法人として独立させるために実施する研修に対する助成を行う「法人独立支援タイプ」（年間最大120万円、最長4年間、ただし3年目以降は年間最大60万円）についても同時に募集しています。

詳細については、下記URLをご覧ください。

■全国新規就農相談センターHP

<http://www.nca.or.jp/Be-farmer/nounokoyou/original/>

■お問合せ先

農林水産省 経営局就農・女性課

担当者：今西、表野（おもての）

電話：03-3502-6469

FAX：03-3593-2612

=====
4. 多面的機能支払のご紹介
=====

農業・農村は、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成等の

多面的機能を有しており、その利益は広く国民が享受しています。農林水産省は、多面的機能が適切に発揮されるよう、都道府県・市町村と連携し、多面的機能支払により地域の共同活動を支援しています。

多面的機能支払は、以下に示す「農地維持支払」と「資源向上支払」から構成されます。

<農地維持支払>

農地法面の草刈り、水路の泥上げ、農道の路面維持等の基礎的な共同活動を支援します。

<資源向上支払>

水路、農道等の施設の補修、植栽やビオトープづくり等の共同活動を支援します。

平成27年度からは、多面的機能支払が法律に基づく安定的な制度となります。制度の詳細については、WEBサイトに掲載しておりますので、ご覧ください。また、取組の開始等に関しては、最寄りの市町村にお問い合わせください。

■ 多面的機能支払交付金（農林水産省ホームページ）

http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai.html

■ お問い合わせ先

最寄りの市町村

担い手のための耳寄り情報

～夏場の高温下でも品質低下が起きにくいコメ新品種「恋の予感」～

近年、登熟期間中の高温の影響で、白未熟粒の多発による玄米品質の低下が問題となっています。農研機構ではこれまでも、高温に強い「にこまる」を育成していますが、栽培地域や年次によっては、収穫期が「ヒノヒカリ」よりも大きく遅れることがありました。そこで農研機構では、近畿中国四国地域の平野部～中山間地に向く中生品種で、高温下で栽培しても玄米品質が優れ、多収で食味の良好な水稻新品種「恋の予感」を育成しました。

「恋の予感」は、西日本で広く栽培されている「ヒノヒカリ」と同じ中生品種で、玄米品質は「にこまる」と同程度、「ヒノヒカリ」に比べると高く、高温条件でも低下しにくい特長があります。収量については「ヒノヒカリ」より約8%多収で、食味は「ヒノヒカリ」と同等の高い評価を得ています。いもち病に対しては「ヒノヒカリ」よりも強く縞葉枯病にも抵抗性を有するため、栽培しやすいことも特長です。

「恋の予感」は「ヒノヒカリ」の品質低下が問題となっている地域に広く適すると考えられ、今後、近畿中国四国地域の「ヒノヒカリ」普及地帯で、同品種に替わる品種としての普及が期待されます。広島県では2014年に奨励品種に採用され、2015年度には1,000ha、2016年度には2,000ha、2017年度には5,300haの作付けが計画されています。

※白未熟粒：胚乳の一部または全部が白く濁ってしまった玄米。精米しても白濁は無

→ <http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>

